

# '96 木製サッシフォーラム

- フェンスターターク イン 北海道 -

## 開催にあたって

日本の窓は、かつては木製でしたがアルミサッシの普及にともない、一気にアルミ化してしまいました。しかし近年、北海道のような寒冷地では住宅全体の断熱性、気密性が飛躍的に向上し、アルミサッシの断熱性、結露などの問題が無視できなくなりました。そのため、より断熱性の高い樹脂サッシが普及しています。そのなかで、木製サッシも以前の気密の悪い木建具の延長のような木製窓ではなく、ヨーロッパの技術も取り入れて、性能の向上した木製サッシが開発されてきました。

しかし、木製サッシの研究・開発、販路拡大、消費者への情報提供などはまだ十分とはいえないのが現状です。そういった意味では、木製の窓は古い歴史を持ちながら、発展途上の製品分野といえるかも知れません。

近年、普及している木製サッシは、北海道では1985年頃から急速にその生産量を伸ばしてきました。しかし最近、パプルの崩壊にともない、リゾート関係の需要落ち込みなどから、その生産量は頭打ちの状態になっているように思われます。

欧米などで見られるように、木製サッシは私たちの生活に密着した使われ方が最も適していると思われませんが、経験の浅いわが国ではその実際の使われ方は、暗中模索の状態です。そこで、木製サッシのこれからの展開を検討するための一助として、木製サッシフォーラムを企画しました。

この木製サッシフォーラムの原型は、ドイツのローゼンハイムにある窓技術研究所(Institute für Fenstertechnik . e . V . , Rosenheim )で毎年10月に2日間行われているフェンスターターゲ(窓の日)です。このフェンスターターゲは、大学教授の講演、最新情報の解説、研究所職員の研究発表、研究所公開などが行われ、ドイツだけでなく、ヨーロッパの主要な窓メーカーの要人が一堂に会して情報交換を行う貴重なイベントとなっています。

今回の木製サッシフォーラムの副題にもこのフェンスターターゲを使いました。これから、毎年1回定期的にこのフォーラムを企画し、木製サッシに関連する様々な話題を提供したいと考えています。

今年は、第1回目として木構造住宅を設計する立場から、納賀 雄嗣氏(一色建築設計事務所代表)に「これからの住宅に求められること - 加速する住宅産業の国際化 - 」と題して、わが国の木造住宅の現状と国際化に向けてこれから木製サッシなどの住宅関連産業に要求されることを、また南 雄三氏(南 雄三事務所々長)に「世界の窓、日本の窓」と題して、海外の木製サッシと最近の日本の木製サッシの例の紹介を講演していただきました。

講演の取りまとめとして、日ごろ木製サッシを盛り込んだ住宅設計をされている大野 仰一氏(北海道東海大学教授)にコーディネートをお願いして、講師のお二人に住宅と木製サッシの今後の展望について語り合ってもらいました。

(林産試験場 石井 誠)